

年間テーマ

『ヨーロッパのふるさと：ケルト（アイルランド）の心』

ヨーロッパはケルトに始まる。そしてケルトの心はアイルランドによく伝わっている。ケルト民族は古代ローマ以前から現在のスイスやオーストリアを中心にヨーロッパに広く住んでいた。彼らは部族を大切に守ったが、ひとつの「国家」を樹立することはなかった。それゆえ、やがてローマやゲルマンの大きな国家組織が現れたとき、次第に周縁部に追いやられ、時に滅びを余儀なくされた。彼らの誇り高い民族の心は音楽や詩やダンスによって今日まで伝承されている。彼らケルト（アイルランド）の人々の心にしばし耳を傾けてみよう。聞こえてくる彼らの心の鼓動は時を超えて私たち日本人の心にも響き合う。それは他ならぬ記憶と夢幻の世界を大切にした熊本ゆかりのラフカディオ・ハーンの心にも通じている。

この市民講座はケルトの心と日本人の心との快い共鳴の場です。どうぞ来て楽しんでいただければ幸いです。

平成30年11月17日（土）14：00～15：30

会場：お菓子の香梅 帯山店ドウ・アート・スペース

熊本市中央区帯山7-6-84（国体道路沿い）

参加費：200円（お菓子と飲み物がつきます）

演講師
：
「ハーレン、母の記憶とふるさとへの想い」
石蕗の花 代表 斎藤幸子氏
つわぶき

1部 母への思慕しほ

作品 夏の日の夢に見る母の思い出

唯一母への想いが書かれた部分を朗読

母と別れてのち、乳母キャサリンに聞かされたアイルランド民謡の中から三題。

「子育てゆうれい」

「魔法のバイオリン」

「三つのおねがい」

2部 青柳ものがたり（朗読劇とブラックパネル）

雪の山中で道に迷った友忠は一夜の宿で美しい娘「青柳」と出会った。一目ぼれした友忠は、青柳を嫁に貰い受け京の都へと上がる・・・。

美しく薄幸の女性を母の姿と重ねる。

作品の中には、必ず母と重ねたと思われる登場人物がいる。

卒塔婆（そとば）や墓石はハーンにとって、珍しく不思議なものだった。